



野口 昌作 議員

減反廃止と農業政策は？

町長

所得向上に取り組む



減らしたい耕作放棄地

【野口昌】 減反廃止後の水田経営をどう考えるか。

【町長】 担い手への農地集積が進み、生産コストの削減がはかられると考えている。

【野口昌】 飼料用米の助成拡充を農業経営の安定化にどうつなげていくか。

【町長】 飼料用米は、平成25年は69haの作付けがあった。産地交付金など活用して作付拡大を検討する。

【野口昌】 農業者・認定農業者・集落営農・農業法人への指導方針は。

【町長】 現在、認定農

業者161人、集落営農31団体、農業法人15法人である。

経営基盤強化の促進に関する基本的な構想を定めていて、普及所・農協などと連携して取り組んでいる。

【野口昌】 農業発展をうながす新しい助成制度の考えは。

【町長】 がんばる農家プラン・耕作放棄地再生・次世代農業梨ブランド創出などの事業に取り組んでいる。今後も担い手確保のための親元就農支援・循環型森林資源活用計画の具体化など進めたい。

まちづくりの支援事業とは？

町長

広域的な組織の強化をはかる

強化をはかる

【野口昌】 地域自主組織支援事業とは、旧小学校区単位で、自主組織の育成をめざすものか。

【町長】 人口減少や高齢化のために、従来のように機能しない集落が出てきている。これを補完するシステムとして、より広域的な組織の強化をはかることが課題と認識している。

【野口昌】 組織は区長会の下部組織として設けるべきと思うが。

【町長】 委員は各集落から選出されていて、活動の状況などを報告されていると思う。「ふれあいの郷かあら山」では、区長を評議員と

位置づけている。

【野口昌】 高麗地区の地区会議は解散しているか。

【町長】 現在は、地域

自主組織「ふれあいの郷かあら山」に発展し、まちづくり地区会議という存在はない。



まちづくりの拠点になっている旧上中山保育所